

國學院大學学術情報リポジトリ

『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再 構築

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 久史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000565

『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築

プロジェクト責任者 松本 久史

本事業は、日本文化研究所の二つの研究部門のうち、建学の精神に基づき旧日本文化研究所の神道・国学研究を継承する「神道・国学研究部門」の研究事業として行われるものであり、2011～2013年度の研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」以来築き上げてきた「国学研究プラットフォーム」のさらなる発展とその成果発信を目的とするものである。

本事業は、具体的には以下の三つの目標によって構成される。(1) 国学に関する学説史・研究史の整理を行い、最新の研究成果を反映した国学史像を打ち立て、それを一般社会に向けて発信する。(2) 上記(1)の作業と連動して、2015～2017年度の研究事業で構築した「明治期国学・神道・宗教関係人物データベース」の修正・管理を行いつつ、近世中期から明治初期までの国学・神道関係人物を対象として、データベースの拡充を行っていく。(3) これまでの事業で構築してきた国学研究のネットワークを拡張する。すなわち、定例の国学研究会・社家文書研究会を行いつつ、学内外の国学研究者を招いて最前線の研究状況に関する公開レクチャーを開催し、さらに日英両言語で運営する双方向型ウェブサイト「国学・神道・日本宗教フォーラム」を立ち上げ、国学・神道研究の情報をグローバル規模で発信する。

こうした事業成果の発信方法については以下の通りである。

(1) における研究成果は、通史形式による国学の入門書としてまとめ、出版する。一般教養書として出版することにより、最新の国学研究の成果を社会に向けて発信する。ま

た、その入門書は本学の神道文化学部の専門科目「国学概論Ⅰ」や「神道概論」の教科書、共通教育プログラム「神道と文化」の参考書として用いることができる。それによって研究事業の成果が学部教育に還元される。

(2) により拡充されたデータベースは、国学研究者にとって有益な研究のツールとなるものである。さらに作業の過程における研究史整理や人物情報の調査の成果が(1)に反映されていく。

(3) の公開レクチャーやウェブフォーラムにより、国内における国学研究の最新状況や、グローバルな国学研究の状況を知ることができる。そこで得られた知見も(1)に反映される。さらにウェブフォーラムではこれまでの日文研における国学・神道研究をアーカイブ化して発信し、国内外に向けて研究の資源を提供する。第2年次には日文研が例年行っている国際研究フォーラムを、本事業の成果発表の場として企画し、開催した。それらによってグローバルな国学研究のネットワークが構築される。

なお、2019年度の事業は以下のメンバーによって実施された。

責任者 松本久史

分担者

専任教員：齋藤公太

兼任教員：遠藤 潤

PD研究員：問芝志保、丹羽宣子

客員研究員：林 淳

共同研究員：一戸 渉、小平美香、小田真裕、芹口真結子、古畑侑亮、三ツ松誠

2019年度研究事業の成果

I. 近世・近代の国学・神道に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築

(1) 前年度に引き続き近世・近代の国学に関する研究史・学説史の整理を行う。その過程で、従来の思想史的な国学史像の問題点を洗い出した。

(2) 公開レクチャーも参照しながら、21世紀に入ってから的一次資料に基づく実証的な国学研究の成果に依拠し、新たな国学史像を具体的にまとめていく。国学史像の案は左記の国学研究会や「国学・神道・日本宗教フォーラム」において発表し、検討した。

(3) 前年度に策定した執筆者の担当案にしたがい、(2)においてまとめられた国学史像に基づいて、国学概説書の全体像を検討し、各章の執筆を依頼した。

(4) 関連する国学・神道人物の一次資料の調査とデータベース上の国学・神道関係人物の基礎的データ収集のため、中部・東海地方の資料館（岐阜県各務原市の内藤記念くすり博物館）を対象として出張を行った。（本誌トピック10参照）。

II. 国学・神道関係人物データベースの拡充

前年度に引き続き、「國學院大學デジタル・ミュージアム」上の「国学・神道関係人物研究情報データベース」の修正・管理を行いつつ、近世中期から明治初年までの国学・神道関係人物を対象として、先行の目録類や、「国学関連人物データベース」における当該項目を調査・確認する。また、先行研究の調査・整理を行う。これらの調査に基づき、データベースの項目を作成し、順次アップロードを行った。

III. 国学研究ネットワークの拡張

(1) 学内外から国学・神道を中心とする日本

研究の若手研究者を招いた国学研究会を本年度は計5回開催した。これにより学内外にまたがる国学・神道・日本宗教研究者のネットワーク形成を促進した（本誌トピック8参照）。

(2) 昨年度から新たな試みとして開始された「国学研究プラットフォーム公開レクチャー」を継続して開催した。これは学内外の国学研究者を招き、それぞれの専門分野の見地から、国学研究の最新状況に関するレクチャーを一般向けに行っていただくものである。このレクチャーで得られた知見は、上記の学説史・研究史整理と国学史像の再構築に反映させていく。本年度は計3回開催した（本誌トピック3参照）。

(3) 国内の国学・神道に関する情報を日英両言語で発信することを目指し、ウェブ上に開設された「国学・神道・日本宗教フォーラム」をFacebookグループとして運用した。

(4) 2019年度の国際研究フォーラムとして神道・国学研究部門が企画と準備を担当し、「21世紀における国学研究の新展開 国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」というテーマで開催した。本フォーラムでは、世界各地の国学研究者を招聘し、国内外における国学研究の成果の紹介・共有、国内外の視点の相互交流を目的として開催した（詳細については本誌トピック1および本フォーラム報告書を参照のこと）。

なお、具体的な報告者としては、ベティーナ・グラムリヒ＝オカ氏（上智大学）、蔣建偉氏（中山大学、中国）、藤原義天恩氏（レスブリッジ大学、カナダ、ただし事情によりレジュメのみでの参加）、裴寛紋氏（KAIST、韓国）、ジョン・R・ベンテリー氏（北イリノイ大学、アメリカ）、松本久史（國學院大學）、コメンテーターとして一戸渉氏（慶應義塾大学）、桐原健真氏（金城学院大学）、林淳氏（愛知学院大学）が登壇した。

以上が2019年度の事業成果であるが、2020年度は以下のように事業実施の予定である。

2020年度の研究事業の計画

I. 近世・近代の国学・神道に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築

(1) 前年度まで取り組んできた近世・近代の国学に関する研究史・学説史の整理を踏まえ、従来の思想的な国学史像の問題点を検討し、最新の研究成果を反映した国学史像の基盤を構築する。

(2) 公開レクチャーも参照しながら、21世紀に入ってから的一次資料に基づく実証的な国学研究の成果に依拠しつつ、従来の問題点を再検討し、新たな国学史像を具体的にまとめていく。国学史像の案は国学研究会や「国学・神道・日本宗教フォーラム」において発表・報告し、構成員を中心として検討を加える。

(3) 既に立案された国学概説書の執筆担当案に従って、各担当者に概説書の具体的な執筆を依頼しているのので、(2)において再検討された国学史像を勘案しつつ、一書にまとめていく。この概説書については、来年度中の出版を予定し、作業を進めていくこととする。

(4) 國學院大學研究開発推進機構学術資料センター神道資料館部門と連携し、神道資料館所蔵、宮地直一コレクションの一つである「羽田野神主家文書」を研究への活用や資料保存の観点から若干の整理を行う。

II. 国学・神道関係人物データベースの拡充

前年度に引き続き、「國學院大學デジタル・ミュージアム」上の「国学・神道関係人物研究情報データベース」を、今後の国学研究における有益なツールとしての機能を果たしていくためにデータベースの修正・管理を行う。具体的には、近世中期から明治初年までの国学・神道関係人物を対象として、先行の目録類や研究を再調査・確認しつつ、「国学関連人物データベース」における当該項目につい

ても確認を行った上で、情報のアップデートを図る。これらの調査に基づいて、データベースを順次アップロードしていく。

III. 国学研究ネットワークの拡張

(1) 定例の国学研究会・社家文書研究会を開催する。国学研究会においては、学内外から国学・神道を中心とする日本研究を対象とした若手研究者の参加を募り、各自の研究発表を行っていく。また、前述Ⅰ―(1)(2)における研究成果の発表と検討を行い、神道・国学研究者の交流を図る。社家文書研究会においては近世・近代の国学・神道に関する一次史料の読解を行い、参加者の史料読解能力の向上も目指す。

(2) 「国学研究プラットフォーム公開レクチャー」として、学内外の国学研究者を招き、それぞれの専門分野の見地から、国学研究の最新状況に関する講演を行ってもらふ。このレクチャーは一般に向けて公開し、またそこで得られた知見を上記の学説史・研究史整理と国学史像の再構築に反映させていく。

(3) 前年度に開設した「国学・神道・日本宗教フォーラム」の管理と運営を行う。SNSの機能も活用しながら国内の国学・神道研究に関する情報を日英両言語で発信する。

(4) 過去の日本文化研究所における国学・神道研究の成果をアーカイブ化し、上記のウェブフォーラムなどを通じて国内外に発信する。

※2020年度の事業計画は以上の通りであるが、本年のコロナ禍もあり、計画の見直しを行った。具体的には、国学概説書は本年度中の刊行を目標としていたが、執筆時間の確保が難しかったため次年度への延期を決定した。また公開レクチャーについても次年度に延期することとなった。他に資料調査の出張についても中止することとした。